

8 問題点や改善点を整理する

☆評価が持つ本来の機能

評価が持つ本来の機能として、「学習者である生徒が学習の到達状況を把握するもの」、「授業者である教員が学習指導の見直しにつなげるもの」という二つが挙げられます。これは、生徒自身が自分の学習を振り返って、何が身に付いているか、どこが不十分であるかが分かり、学習の改善に資するものであるということだけでなく、教員・学校が学習指導や教育課程の在り方を問い直す情報として活用することを意味しています。

評価結果を受け止めよう

生徒の提出物を評価したとき、こちらが意図したものとは違う解答ばかりで、求めているものとは異なることがあったとします。そのとき、皆さんはどのように感じますか。「どうして理解してくれないのだろうか？」と考えたことはありませんか。

そのようなときは、生徒に提出を求めた課題について客観的に考える必要があります。課題への取組状況は、教員が実践した授業の成果を表しています。自分の教え方に原因があったのではないか、設定した目標が生徒の学習状況と一致していなかったのではないかと振り返ることが大切です。

そして、そのような結果になった原因を探り、次には生徒の学習状況に合った課題を用意することで、より良い授業づくりにつながります。

評価結果を分析しよう

より良い授業づくりのために、前述の例で考えると、「提出物に書かれたものは、なぜ、教員が意図したものと違う解答ばかりなのか」について分析する必要があります。

その理由として、授業が分かりにくくて理解できなかった、適切な発問がなされなかった、学習の内容が難しくて分からなかった、書くための時間が不十分だった、書き方が分からなかったなど、様々な要因が考えられます。

生徒の実態から、原因を追求し、問題点や改善点を整理しましょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

生徒の様子にヒントがある

授業観察では、生徒の取り組んでいる様子を分析し、その意味を把握することが重要です。寝ている生徒、ボーッとしている生徒、その場にそぐわない発言をする生徒、おしゃべりする生徒などは、なぜそのような行動を取るのでしょうか。静かにしている生徒も「分からない」と言えないのかもしれませんが。このように、生徒の姿を様々な角度から分析することも、授業改善のための大切な視点です。



自らの指導を振り返るチャンス

ワークシートに書かれた生徒の解答を見て、「生徒への指示が適切だったか」「事前の指導で理解させるべきことが徹底できていたか」などと、自分の指導をもう一度振り返ってみましょう。

〈例〉 生徒の解答を分析する

理科・化学ワークシート

実験で観察した化学反応についてまとめなさい。

化学の授業で、実験後、このようなシートを提示し活動をさせたところ、生徒が様々な解答を書きました。

生徒A

希塩酸を加えたら、液体が白く濁り、試験管の底に沈殿が生じた。

生徒B

実験で見た化学反応は「 $\text{Ag}^+ + \text{Cl}^- \rightarrow \text{AgCl} \downarrow$ 」だと思う。

生徒C

よく分からない。

観察した生成物の色や反応の様子を記述したり、観察結果を化学反応式で説明したりと、記述の仕方がバラバラだということは、指示の仕方を見直す必要があるということです。ワークシートにも改善点があるかもしれません。

また、生徒Cの解答の理由も考える必要があります。実験の内容が分からないのか、うまく観察できなかったのか、ワークシートの書き方が分からないのか、時間がなくて分からないと書いたのかなど、いくつかの理由が考えられます。

これらの反省点を授業づくりにいかすようにしましょう。



ステップアップ課題

- ① これまでに自身が作成したワークシートの中から、左の〈例〉「理科・化学」のワークシートのように、生徒の解答が分かってしまった設問がなかったか、振り返りましょう。
- ② ①のような解答があった設問は、答えの方向性を整えるために、問いかけ方をどう改善すると良いのか、考えましょう。
- ③ ①のような解答が見られない設問は、自身がどのように工夫をしたためなのか、客観的に分析しましょう。

R-PDCAサイクル② (4章-7から続き)

振り返りは実践した授業や研究活動を評価する活動 (Check) にあたり、身に付けさせたい力が育成されたのかを判断します。そして、その評価結果を分析して次の授業づくりへつなげ、次年度へ向けた改善を行います (Action)。

このようなR-PDCAサイクルによる授業改善は、特定の授業研究だけではなく、日々の授業実践においても求められます。